

ラ、恐らく又獨逸の神秘家等を生徒の記憶に喚起させる。

提示段に於いては、ルーテルの事業並に新教の立場と舊教の立場との關係を、具體的に提示すべきである。まづ此の段では精密なる部分整頓が大切である。第一に前に説明(第三三一條)したる全運動の發展狀態を段階に區分すべきである。第一段の中では凡そ以下の區分をなすべきであらう。

- 一 ルーテルのテツツエルに對する反響
- 二 法王代理とルーテルとの闘争、ルーテルの獨立心昂進より、法王權並に宗教會議の權威を拒否するまで
- 三 法王の破門狀の布告、ルーテルの三箇の檄文、破門狀の燒棄
時間がかからぬ場合、殊に高等の學校に於ては、ルーテル時代に、直接に學生を魅力をもて引きつけた一つの原典、即ちその三箇の檄文の中最も重要な「ドイツ民族のキリスト教徒の貴族に宛つ」といふルーテルの文書を是非讀む。此は、今はレタラム版で一般に手に入れることができる。

四 特に描寫すべき歴史的要素、ヴオルムスの國會前のルーテル、そして文明史的に注意する價值のある個々の出來事、例へば夕方の集會が炬火の光の下にて催されたことや、ブラウン シュロイヒ侯エリヒが、一場の銘酒アインベツク市産麥酒をルーテルに贈つたこと等を適當に陳述する。(生徒が眼前にそれを見るかの如き思おも持もちあらしめよ)。
生徒がルーテルに關する活々たる興味を獲得したる後、はじめて西曆紀元千四百八十三年から同千五百十七年までのルーテルの傳記を補説する。歴史中の偉人の誕生から初める普通の提示は、學問上には正當である。けれども教授上では誤りである。青年時代の物語は本來關係の無い事で、壯年時代の事業によりて初めて意味があるからである。小説家も亦その主人公の誕生から初めないであらう。——小説家がそれを敢てする場合には、其れは誤りであるか、又は他の人物等の爲めに必要であるのである。——小説家はむしろ二三の特徴によりて、まづ主人公に對するわれわれの興味を起す。然る後その主人公の幼時を補説する。

第二段の發展狀態は、精神的生活並に俗世間的生活に於けるルーテルの教への効果を示す。特に百姓一揆のことを詳細に講述する。その一揆に對してはルーテルの新しい教へは最後にそれを終熄せしめる要素を造つたのであつて、その原因を構成せるものではない。しかし此の百姓一揆のことに共に、それ以前に起つた農民運動のこと、西曆紀元千四百七十六年異教徒として焚殺せられたハンネンツェルのことを具體的に提示し、かれの十二箇條中の重要なものを逐字的に極く精密に引用し、農民も王侯も等しく殘忍なることを具體的實例を以て明にする。又ミュンスタルに於ける再洗禮派の一揆と農民戦争とを結合して説明する。第二段の發展の終結をなすものは、シバイエル第一回國會である。

第三段の發展に屬することは新教の國教制、新教會を認めないシバイエル第二回國會、土耳其の難による皇帝の抑制、西曆紀元千五百三〇年のアウグスブルクの國會、即ち皇帝が拒否したけれども、無難作に試みることできたるアウグスブルクの信仰告白、同千五百三十二年のニュールンベルヒの平和、即ち「共同的自由宗教會議」までの緊要問題の延期である。第四段の發展は新教の一層普及せる際に於ける戦争の休止である。第五段はツェンツェル戦争、モリツツ選帝侯が皇帝と離反せるによる該戦争の形勢一變と、アウグスブルクの宗教平和を含み、第六段はトリエントの宗教會議と其の改革とを含む。各個々の區分は教師が話し、次に復誦させ、次に生徒と共に自由問答で以て復誦を修正し、最後に新様にして「精練された總括」を反覆するであらう。

連結段に於ては、豫備段に於て、觸れたるのみルーテルの先驅者等を一層詳細にもう一度説明することが必要である。特にフスの態度と運命はルーテルのそれと比較すべきであり、又その状況も力説すべきである。そしてその状況よりして、此のガヘミヤの宗教改革者の結果の僅少なりしことを説明すべきである。同様に瑞西並にスコットランドに於ける平行的の運動に就いて述べ、同じくルーテル及び瑞西人の不成功なる試みを併せて述べべきである。特に其の他の宗教改革と比較することによりて、「獨逸の宗教改革」といふ標題の理由を説明すべきである。この精神的改新と、自然の春に於ける更新との間に類似があるとの考へは自然と出で來るであ

らう。併し乍ら舊教信者の教師であれば、宗教改革を恐らく破壊的の夕立と比較するであらう。

概括段に於ては獨逸の宗教改革の時代を宗教史の中に排列すべきである。この宗教改革は律法の宗教から、情操の宗教へ移り變つて行くことを意味する。此の移り變りは既に前に「第一三五條(ニ)(ホ)並に第四五六條以下」一つの心理的原因があつてしばしば反テル及び其の他の宗教改革者は、キリストの福音並にパウロに歸つて居るのであるが、しかもなほその上に一步を進めて居るといふことを教師に示さなければならぬ。外形的舞台も亦、宗教改革には原始キリスト教を回想せしむるものがある。例へばヨルムスの國會の前に於けるルーテルの如きは、エルサレムの最高集議所の前立てるペテロ及び其の他の使徒達(使徒行傳第四章、第五章)を想起させる。此の段に於て話されたるものより得られる洞察力の爲めには、當時の事情に關する知識、即ち階級的の區別、諸階級の經濟狀態、文化並に修養の程度の知識が必要である。世界歴史的には宗教改革時代は近世の初頭とすべきであらう。即ち宗教改革時代の特色は地理上の地平線の擴張、並に歴史的眼光の擴大により、又中世の狹隘並に束縛より脱して、自由なる宗教生活に向ふし初めたる近世の初頭であると知らしむべきであらう。

應用段に於ては、結合の段階にて行はれなかつたならば、既有的知識を新しい光に照らす爲めに、新知識を用ふべきである。前に(第四四條以下)必要であると述べたる教授科目の相關(チレルに於ては統合)は今や實行される。特に國語(獨逸語)教授は宗教改革時代の材料を取扱つて居る多數の詩を必ず提供すること。その詩は此の時機には以前よりは一層深く理解することが出来、又同時に重なる事變を、宗教の講義以上に精密に提示することが出来る。即ちプラテンの「聖ユーストの巡禮」、ザレットの「ルーテルの立言」、グロークの「貴公子ゲオルグ」、ハーゲンバツハの「ルーテル墓前のカロロ皇帝」等を提示する。斯様な詩は必ず讀本中に載つて居る。同様に宗教教授も多くの結合點を提供するであらう。即ちルーテルの「われ／＼の神は一つの堅固なる城塞なり」は、今は大戯曲と結び付けて、戦争の「ときよ、こゑ」として一層理解を進め、又説話したる個々の事件、たとへばトルコ人(古い敵敵)によりて脅威さ

れたる危難によりて説明される。應用の段に於ては又或る歴史的材料の場合には、人生に適用する道徳的眞理に歸結することも必要である。宗教改革時代より得、もしくは寧ろ宗教改革時代よりして確證せしむる眞理は恐らくかの古語の「溫和なるものは恒存する」であらう。恐らく溫和なるもの、新しい代表者ルーテル、メランヒトン、ツェンダリ、カルギン、ジョンノックスは恒存的傾向を齎らすことができた。カールシュタット、トーマス、ミュンツェル、ライデンのヨハン等の如き暴力で以て、財産制を轉覆しようと思ふ極端者は失敗もしくは滅亡した。個々別々の大事件の歴史的關係は有益といふよりも寧ろ有害であり、生徒の想像に對しては危険である。只典型的文化史的風景は、教授に適し殊に此の最後の應用の段階には適當である。就中生徒は物語で以て提示を受け此の典型の中に入る個々の人物を、斯様な圖解の典型的形態に就きて發見すべきである。

トバル氏 教育學概論終り

いざさらば わかき旅人 さきくあれ

行き暮れぬまに やどもとめてよ

ふとあひて ふとなつかしみ わかれゆく

うつゝのころ かげろふの飛ぶ

大正十五年十二月十四日印刷
大正十五年十二月十七日發行

トバル氏教育學概論
定價金四圓八拾錢



翻譯者 林 圓 應
發行者 辻 本 經 藏
印刷者 溝 口 榮
東京市神田區錦町三丁目十一番
市外落合町四丁目

發行所

東京市神田區錦町三丁目十一番
振替東京五八一八〇番
電話神田二五三九番

教育研究會

整版者 野吾由次郎

目書行刊會究研育教

研究會	三木正一著	經濟學研究	上菊	製判	定價金十三圓	送料金十八圓也
東京女子大學 講師法學士	片山哲著	婦人の法律	上四六	製判	定價金三圓五十錢	送料金十八圓也
東京府立 第三高女教授 文士	木下一雄著	女子の哲學	上四六	製判	定價金二圓三十錢	送料金十八圓也
東京帝大教授 文學博士	吉田熊次著	最近教育思潮	上四六	製判	定價金三圓	送料金十八圓也
東京帝大助 教授文學士	入澤宗壽著	新教授法原論	背四六	皮判	定價金十三圓	送料金十八圓也
	田制佐重著	教育的社會學	背四六	皮判	定價金三圓五十錢	送料金十八圓也
五高教授	八波則吉著	讀本國語の講習	上四六	製判	定價金三圓	送料金十八圓也
五高教授	八波則吉著	第二國語の講習	上四六	製判	定價金三圓五十錢	送料金十八圓也
東京高師訓導 小林佐源治著	八波則吉著	第三國語の講習	上四六	製判	定價金	送料金
		自學讀み方教育	上二	製判	定價各	送料各十八圓也

目書行刊會究研育教

第五高等學校 教授文學士	八波則吉著	教育に安住して	布四六	裝判	定價金二圓三十錢	送料金十八圓也
東京帝大助 教授文學士	入澤宗壽著	國民教育の思潮	布四六	裝判	定價金二圓三十錢	送料金十八圓也
入澤宗壽 博士	岡崎博著	案法學校體育	上四六	製判	定價金二圓三十錢	送料金十八圓也
東亞協會主任 文士	神代峻通著	社會問題十五講	上四六	製判	定價金二圓三十錢	送料金十八圓也
ウエル原著	木下一雄譯	人間相愛の道德	上四六	製判	定價金二圓三十錢	送料金十八圓也
九大教授	松濤泰巖著	國民教育講話	上菊	製判	定價金十二圓	送料金十八圓也
文學士	林謙次郎著	最新歐米教育史	背四六	皮判	定價金三圓八十錢	送料金十八圓也
東京女子師範 學校長文學士	龍山義亮著	教育制度の新潮	背四六	皮判	定價金三圓八十錢	送料金十八圓也
東大助教授	阿部重孝著	ドルトン案の教育	半菊	裁判	定價金五十錢	送料金
文學士	入澤宗壽 山崎博共著	案法新地理教育	上四六	製判	定價金二圓三十錢	送料金十八圓也

目書行刊會究研育教

第五高等學校 教授文學士	八波則吉著	讀本	國語教育概説	布四六判	定價金二圓十八錢也
文學博士	吉田熊次著	輓近の教育及教育學	布四六判	定價金三圓八十錢	
文學博士	檜崎淺太郎 丸山良二著	マンタルラストの要領	布四六判	定價金一圓三十錢	
青木文學士 淡路文學士	岡部文學士共編	入學試験のテスト	紙菊裝判	定價金一圓八錢也	
熊木師範教諭 文學士	田花爲雄著	各科教授學習精義	背四六判	定價金三圓五十錢	
東京高師 前導	水木梢著	心理科新教授法	上四六判	定價金二圓五十錢	
東京兒童の村 小學校訓導	志垣寬著	國史新教授法	上四六判	定價金二圓五十錢	
東京兒童の村 小學校訓導	峯地光重著	綴方新教授法	上四六判	定價金二圓五十錢	
廣島高師訓導	菊地勝之助著	地理新教授法	上四六判	定價金二圓五十錢	
奈良女高師 教授	石澤吉磨著	家事新教授法	上四六判	定價金二圓五十錢	

目書行刊會究研育教

東京高師 前導	水木梢著	算術新教授法	上四六判	定價金二圓五十錢
東京兒童の村 小學校訓導	野村芳兵衛著	修身新教授法	上四六判	定價金二圓五十錢
東京兒童の村 小學校訓導	峯地光重著	國語新教授法	上四六判	定價金二圓五十錢
九大教授 文學士	松濤泰巖著	全我活動の教育 <small>(ラヂオ・エレクトロニクスの批判的研究)</small>	背四六判	定價金三圓十八錢也
東京市政調査會編	自治及修身教育批判	上菊裝判	定價金一圓三十錢	
東京高師 前導	水木梢著	教育教授の高等批評	上四六判	定價金二圓八十錢
文部省少年團 調査委員	奥寺龍溪著	少年團訓練法要義	上四六判	定價金一圓五十錢
	奥寺龍溪著	列強少年の社會教育	上四六判	定價金一圓五十錢
	櫻葉勇著	實演修身例話資料	三年用 送料各册一圓八十錢	
千葉女師校長 文學士	平田華藏著	教育者のための心理學	上菊裝判	定價金四圓廿七錢也

教育研究會刊行書目

千葉縣女子師範學校校長	平田華藏編	兒童教育研究會編	書方標準成績	文檢受驗協會編	各科必勝法指針	兒童衛生的觀察と實際	新實業補習教育講話	小月小學校外三校	學校調查	教員養成所制の調査	國民法制要義	國民經濟要義	女子國民教育學
第五卷	第一冊	廿六葉	五百頁	五葉	五葉	上菊	上菊	紙菊	紙菊	紙菊	中大正一三・三・四	中大正一三・四・五	高大正一三・一三〇
定價金十二圓也	送料金	定價金二圓六十錢	送料金三圓也	定價金四圓五十錢	定價金四圓五十錢	送料金廿七錢	定價金四圓五十錢	送料金廿七錢	裝判品	裝判品	檢定書	檢定書	檢定書

252
337

終

